

### 3. リレーエッセイ (2024年8月号)

認定 NPO 法人森のECHICA 代表理事 であり、認定こども園 花の森こども園 園長の葭田 昭子 (よしだ あきこ) さんによるリレーエッセイの第2回目です。今回も、とても刺激的な内容ですので、是非、お読みください。

#### 非認知能力という青い鳥 2

認定 NPO 法人森の ECHICA 代表理事 葭田 昭子



非認知能力と非地位財と呼ばれる幸福度には相関関係があるという。非認知能力は、みんながこぞって探す幸せの青い鳥なのだ。

森や川におじゃました子どもたちを観ていると、日々遊びに没頭していくようになる。このわくわくする遊びを花の森では「自らに由る遊び」という。

子どもは仲間とひとつになって「嘘っこ」の世界で何にでも成れる。筋書きは子どもの意のまま、池井戸潤や宮藤勘九郎も思いつかないような筋書きが展開し、時にお父さん役は、車がないので蛇になってクネクネ地面をはって出勤して行く。

ヒナ鳥は青大将に吞まれることもある。親鳥のけなげな子育てと悲しみに共感しつつ、青大将の空腹にも共感する。子どもは大地に身体を預け、溶け込んで空を見上げてトリップし、川の浅瀬に浸り、川にもなる。



そんな「自らに由る遊び」を完遂したこどもたちは、非常に満足し自信に満ちている。つまり幸せなのである。

自然界は、常に変容し続け、留まる様態はない。

ある日、子どもは、地面から湧いたゲジゲジのダンスに出会う。「ワンツー、ワンツー」とゲジゲジの腰ふりと一緒に歌いゲジゲジとコラボする。ショーは終わり、ゲジゲジは地面の中に消え、ふと我に返る。虫網で捕まらないタマムシやナナフシが肩先に留まったりするとその生命と通じ合えたような気持になる。カナブンの樹液の取りっこにアフレコする。雨の後はどつてどつてこと、いろんなきのこが顔をだす。大きな桑の葉裏はセミの羽化とカタツムリの避暑に人気だ。森は遊びと発見の宝庫で「自らに由る遊び」は自分の高揚した思いつきをなんでも試すことができる。他者の生命を貶めない限り。

「思い通りにならない経験」「純粹経験」は人間以外の生命観に触れることで起こる。そして非認知能力は、退屈を知らない「自らに由る遊び」と相性がいい。 つづく

#### ※執筆者紹介

認定 NPO 法人森の ECHICA 代表理事 葭田昭子 (よしだ あきこ)

保育士として 4 年間埼玉県に奉職したあと、ゼロから創る人になりたくて陶芸の弟子となる。陶芸家として16年。3男の母。2008年息子の幼稚園が早期教育に転換することを機に仲間と自主保育のようちえん「花の森こども園」を立ち上げる。2021年地方裁量型認定こども園となり、同園園長。著書に「ようちえんはじめました！」(新評論)



<http://www.hananomori.org>

### 4. 事務局からのお知らせ

子森ネット後援事業「国際校庭園庭連合日本支部 5周年記念セミナー」のご案内 ※詳細 ⇒

